

リレーコラム

～経営改革専門委員からのひとこと～

4名の経営改革専門委員とともに

市民ニーズや社会環境の変化を常に捉えながら、さらなる変革を通じて、「未来につなぐまちづくり」「創る改革」とよなか夢みらい」の取り組みを進めるために、豊中市経営戦略会議を設置しています。会議では、4名の経営改革専門委員に参画いただき、さまざまな視点から都市経営を進めるにあたっての大変貴重なご意見をいただいています。市民の皆さんにも各委員の感じていることや考えなどを伝えたく、今月号から3月号まで、リレーコラムとして紹介していきます。どうぞご期待ください。



長内繁樹市長

《 経営改革専門委員 》

- 早稲田大学大学院
経営管理研究科 教授
長内 厚
- フジモトゆめグループ
社会福祉法人隆生福祉会
理事長 藤本 加代子
- 同志社大学
政策学部 教授
野田 遊
- 株式会社あたらすファミリー
代表取締役社長
下田 ひとみ

任期は令和5年3月31日まで
敬称略・順不同



生産性のジレンマ

生産性を上げよう、効率化しよう、というのは良いことのように思えますよね。でも、生産性を上げることは必ずしも良いことではない、とハーバード大学の故アバナー教授は1978年の書籍『生産性のジレンマ』で示しました。生産性を上げようとするとムダなことをしなくなり、一つのことに集中することで、多様性が損なわれ、イノベーションが起きにくいということです。効率性が高い企業は新たな商品のアイデアが出にくい、新たなアイデアが



長内厚委員

豊富な企業は効率性がよくない、と指摘されています。子供達の学習でも効率よく物事を覚えることだけをさせてしまうと、学校の成績は優秀でも、自らアイデアを出すことが苦手になるということもあります。時にはムダかもしれないけれども立ち止まり、自由な発想で考えさせることが大切です。行政も本来、民間の市場経済で取りこぼされてしまいう人たちをケアすることが重要な仕事なので、効率化一本槍だと本末転倒になりかねません。とはいえ、ムダばかりでもいけませんから、なにごともほどほどが大切かもしれません。

